

週刊朝日

週刊朝日

101年間、
ご愛読ありがとうございました。
ございました。

'23.6.9
休刊特別増大号
560円
撮影 / 浅田政志

30~
出張





週刊朝日

6月9日特大号

第128巻第27号通巻5813号 第3種郵便物認可
2023年6月9日発行 毎週火曜日発行(5月30日発売)

発行人 藤井達哉
編集長 渡部 薫

発行所 朝日新聞出版

〒104-8011東京都中央区船場5-3-2
電話(03)5541-5577(編集) (03)5546-7731(販売)

特別定価 **560円**

本体509円⑨



雑誌20082-6/9



4910200820635
00509

Printed in Japan
凸版印刷株式会社印刷

浅田政志

「昭和の『週刊朝日』編集部」 撮影ドキュメント



「編集部あるある」を関係者一列で再現。パソコン類はすべて片付け、当時の雰囲気の、本誌バックナンバーを随所に配置した



片顔を表紙3面で展開したのは合成一切なしの一枚写真。初演33人の関係者一同の生き生きとした表情は、浅田さんが一人ひとり丁寧に演じた演技の賜だ。「上」部下に送られる上司役に「もっと大きな表情で、こう……笑顔がズレちゃったりしてもいいかも」と実演。(左)いまから取材に行くっていう勢いがほしいんだよね。ジャケットは脱いで、胸に汗いで立ち上がった瞬間にしましょうか。勢い余って、ゴミ箱を蹴っ飛ばしちゃった。あたいな感じで」とディテールまで丁寧に演出



あさだ・まさし 写真家。1979年、三重県生まれ。2009年、家族を被写体とした“演出写真”の写真集『浅田家』で第34回木村伊兵衛写真賞を受賞。20年には同写真集と『アルバムの子カラ』の2冊を原案とした映画『浅田家!』が公開され人気を博した。この夏、『キヤノンギャラリー 50周年企画展』として、東京・品川のキヤノンギャラリー S (6月24日～8月7日)、キヤノンギャラリー 銀座/大阪(いずれも7月4～15日)で写真展を同時開催

日本最古の総合週刊誌が100年の歴史に幕を下ろす。雑誌メディアが過渡期にあるなか、恐縮ながら、象徴的な出来事ではあるまいか。最終号の表紙には、ありのままの編集部の姿を残してはどうか。そう提案すると、部員の口から次々と「編集部があるある」エピソードが飛び出し、それまで重苦しく停滞していた会議の空気は一変。週刊誌が最も勢いのあった、古き良き昭和時代の編集部を表紙に、という方向性が瞬時に決まった。

ならば、演出写真の第一人者、浅田政志さんに撮影をお願いできないか——本誌の表紙撮影は初めてではないとは言え、唐突な依頼にもかかわらず、浅田さんは「光栄です」と即座に快諾してくれた。事前に編集部を口ケハンし、どこに何人配置してどう撮るか、打ち合わせを重ね、キャスト表を作成。必要な小道具を準備していく。そして当日、浅田さんは撮影開始の5時間前に編集部入りし、撮影のセッティングをしながら、懐かしいバックナンバーなどを随所に配置。やがて集結したさまざまな衣装に身を包んだ部員らに、立ち位置と役割とを伝えていく。何

度か試し撮りを重ね、照明や位置を微調整。だが、何よりも浅田さんがこだわったのが、表情や動きだった。33人もいるスタッフ全員の体の動き、小道具の使い方から表情までを細かくチェックし、演出していく。結果、自然ながらも可笑しみのある一枚写真が仕上がった。合成などは施していない。コロナ禍からの、休刊決定。人少なで、ぎくしゃくとした重い空気が立ち込めていた編集部に、久しぶりにたくさんさんの笑顔が満ち、一体感が生まれた瞬間でもあった。時代がまたひとつ、変わっていく。